

週刊 武四郎

●毎月第四週は、
松浦武四郎のコレクション
についてご紹介します

第16号

2018年(平成30年)7月25日(水)
発行・松阪市

監修・松浦武四郎記念館

しぶうちわ 洪団扇コレクション

世の中にコレクターという人々はたくさんいます。でも、お金を飽かせて美術品をただ「買いたがる」だけ……買う時のあの快感がたまらん！というコレクターは古物蒐集の世界ではあまり尊ばれないようです。

武四郎さんは集めたものを分類整理することまで楽しむ真のコレクターでした。集めたものを貼り混ぜ屏風に仕立てたり、それぞれのコレクションがびったり収まる箱を作って大事に保管したりしました。

武四郎さんのコレクションの中で、もっともお金がかかっていなくて、逆に労力と時間がかかったであろうと思われる蒐集品に〈洪団扇〉があります。

洪団扇というのは、焼き鳥とか鰻を炭火で焼く時に、パタパ

タ扇ぐ……あの団扇です。もともとは、描き損じなどの反古紙を団扇の骨に貼って、そこに柿

洪を引いた粗末なものでした。武四郎さんは、暇を見つけてはせっせとこの洪団扇を作っていたらしくて(非常にマメで器用な人だったので)、外出する時は、冬でも腰

にこの洪団扇をさしていました。それで、出先で有名な人に会うと、「ひとつお願いします」と、この洪団扇に絵や字を書いてもらうわけです。

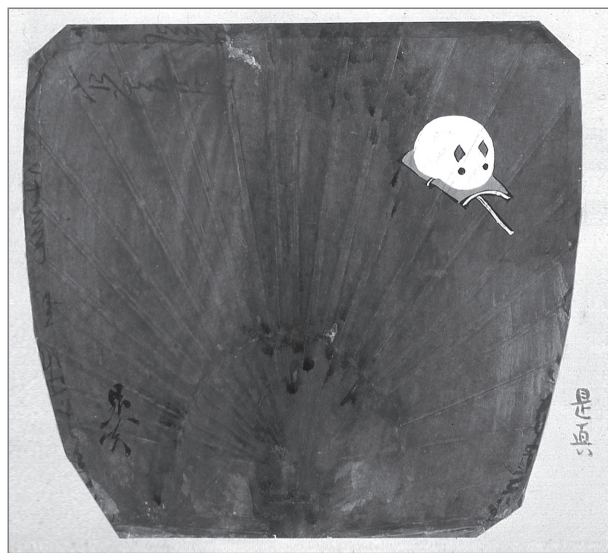
集められた団扇には、勝海舟や市川團十郎、シーボルト、モース……と明治の名だたる文化人や政治家など、様々な人々

の名が見えます。

集めも集めたり、その数百四十七枚。のちに、団扇の骨からはずして屏風にしたり、画帳に仕立てたりしました。もともと粗末なものに書かれているだけに、かえって並べてみると鄙びた趣があると武四郎さんの

存命当時から評判だったそうです。

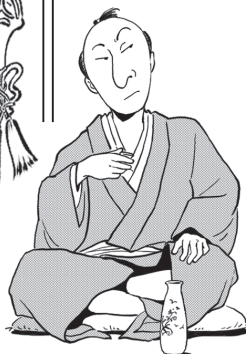
図版は、柴田是真という幕末明治に名を馳せた漆芸家・画家の描いたウサギの図で……これは、へこんだりはねたりという江戸の玩具を描いたものです。今は忘れられてしまったような人の名も多いのですが、当時は超一流の人ばかり……この画帳を眺めていると、武四郎さんのきらびやかな交友関係が今に偲ばれます。



▶柴田是真筆洪団扇 (松浦武四郎記念館蔵)

松浦武四郎 (1818～1888)

三重県松阪市出身。幕末から明治にかけての探検家、著述家、蒐集家。蝦夷地(今の北海道)を6度にわたり探査し、アイヌの人々と交流を深め、蝦夷地の詳細な記録や地図を作成した。維新後、蝦夷地に代わる新たな名称として〈北海道〉のもととなる〈北加伊道〉を含む6案を政府に提案したことから〈北海道の名付け親〉と称される。



文・河治和香 装画・りんたろう 編集・細山田正人 デザイン・DOMDOM

●松浦武四郎を主人公とした小説『がいなもん 松浦武四郎一代』(河治和香著)が、小学館より好評発売中!

